

ふるさと音川の魅力を未来に繋ぐ

～気づき、考え、主体的に取り組む子供の育成～

1 はじめに

音川校区は、富山市南西部の山間部にあり、緑豊かな自然に恵まれた里山地域である。地域住民の方々は大変協力的で、豊かな自然体験の場を積極的に提供したり、外部講師として学校の教育活動に参画したりしてくださる。

地域の方々の 様々な活動のおかげで、子供たちは貴重な体験活動ができている。その反面、子供たちは活動に対して受け身になりがちで、活動を楽しんではいるが、学習に対する課題意識が弱い。何のために活動し、何を学び、どのように生かしていくのかなどについては十分に考えることができていない状況にある。

このような状況を受け、今年度は、子供たちが自分たちのふるさとである音川地区の魅力や、それを守るための課題に気づき、自分たちに何ができるのかを考え、主体的に取り組むことができるように本実践を行った。

2 活動の実際

(1) 2年生の取組

生活科「生きものと友だち」

里山に囲まれた本校の特色を生かし、2年生は生活科で生き物を探し、飼育する学習に取り組んだ。そして、捕まえたトノサマバッタを学級のみinnで飼育することにした。活動の中で、子供たちは「トノサマバッタに長生きしてほしい」「卵を産んで赤ちゃんが生まれてほしい」などの思いをもち、飼育方法を図書やインターネットで調べ、大切に世話をすることができた。学習を通して、身近な音川の自然には、自分たちと同じように命がある生き物がたくさん生息することに気づき、その命を大切にしていこうとする思いを育むことができた。

飼育を続けているうちに、子供たちは、トノサマバッタが飼育ケース内で産卵する様子を目撃した。成体はよく目にする子供たちであるが、これまで見たことがない生命の誕生の瞬間に、心を動かされたようである。子供たちは、このような生命の営みが行われている音川の自然環境の魅力に気付くことができた。



学校の敷地内での生き物探し



バッタを飼育するための準備

(2) 3年生の取組

社会科「プロフェッショナル～音川の大かぶづくり名人にせまる～」

総合的な学習の時間「音川すてき発見隊～大かぶづくりの秘密をさぐろう～」

3年生は、社会科と総合的な学習の時間に、地域の特産物である大かぶづくりについての学習を行った。学習を始めた当初、子供たちにとっての大かぶの魅力を聞いたところ、「おいしい」「有名」等の漠然としたものであった。

大かぶについて深く学ぶため、地元の大かぶ農家の畑に足を運び、インタビューをしたり、仕事の様子を見学したりすることを繰り返した。そして、大かぶづくりの工夫や魅力、その歴史について学ぶことができた。また、約50年間もの間、音川産の大かぶを千枚漬けに加工・販売している京都の老舗漬物店に、オンラインによるインタビューも行った。これらの活動を通して、子供たちは音川地区の名産である大かぶや、その生産に対する興味や愛着をより強くしていった。

更に、近隣にある小規模校との交流学习を行い、互いの校区の魅力について伝え合う活動を行った。子供たちは、自分たちの校区の特産品について他校の友達に伝え、魅力を分かってもらうことで、郷土への誇りを一層強くもつことができた。

同時に、音川以外の地域でも、その土地ならではの文化を大切に守り続けていることに気付き、自分たちも同じように音川の文化を大切にしていきたいという思いを強くすることができた。



大かぶ農家へのインタビュー



オンラインによる京都の老舗
漬物店へのインタビュー



近隣の小学校との交流学习

その後、子供たちは、地域の方の助言の下、学校の農園に種を蒔き、大かぶの栽培に取り組んだ。秋にはたくさん的大かぶを収穫し、地元の加工業者の協力を得ながら甘酢漬けづくりに取り組んだ。



学校農園での大かぶの種まき



自分たちでつくった大かぶの収穫



地域の方と行った大かぶの
甘酢漬けづくり

これらの多様な学習活動を通して、子供たちは「おいしい」「有名」という大かぶ自体の魅力だけではなく、大かぶづくりという地域の文化とも呼べる産業を守り続けている人々の思いに接し、尊敬の念を強くもつようになった。

学習の終末には、右の写真のようなポスターを製作し、校内に掲示した。自分たちの大かぶづくりや地域に対する思いを表現し、異学年の友達にも伝えることができた。



大かぶづくりの魅力を
発信するポスター

(3) 4年生の取組

総合的な学習の時間「音川の宝物を見つけよう」

4年生は毎年、環境をテーマに総合的な学習の時間に取り組んでいる。昨年度までは、年に3回、富山県自然博物館ねいの里に行き、その施設や自然公園内を案内してもらい、そこで興味をもったことをインターネットや書籍で調べることが主な学習内容であった。

今年度は、子供たちがより地元に密着し、体験を通してその魅力を実感することをねらって単元を構想した。そして、学校の身近な河川や里山でのフィールドワークを行い、その学習から「音川の自然の素晴らしさをみんなに伝えるよう」という課題を設定し、追究することにした。

まず、単元の導入で「音川の宝物と言えば何でしょう？」と投げかけた。子供たちからは「きれいな空気」「地域を流れる山田川」「森林」「人と人とのつながり」等、様々な意見が出された。その後、話を深めていく中で、音川の宝物として、豊かな自然環境が挙げられることを確認することができた。

「音川の宝物」の魅力を伝えるためには、伝える側の子供たちがその魅力を十分に実感する必要がある。そのため、複数の子供たちが宝物と考えていた学校の近くを流れる山田川に行き、その魅力を調査することにした。

右の写真は、1回目の調査活動の様子である。このとき、子供たちは数種類のヤゴの他に、数匹の魚を捕まえることができた。

子供たちにとって山田川自体は、校区を流れる身近な存在ではあるが、そこに生息する魚にはあまり馴染みがなく、一体何という名前の魚であるのか、その魚はどのような環境に生息する魚であるのかなど、未知のことが多かった。インターネットで調べたり、魚に詳しい上級生に聞いたりしてもはっきりとした答えは分からなかったが、その時点で分かっている知識を基に飼育を始めた。

その後、更にフィールドワークを重ねたり、インターネット等で飼育の仕方を詳しく調べたり、飼育環境を整えたりしているうちに、魚に対する子供たちの興味はどんどん深まり、飼育していくために必要な知



1回目のフィールドワーク(地元の
山田川に生息する生物調査)



1回目のフィールドワークで
見つけた魚

識や技能を習得したいという思いが強くなっていった。

そこで、ねいの里自然公園での秋のフィールドワークの際に、撮影した魚の写真を所員の方に見せ、その種類や飼育方法等について質問し、自分たちに必要な情報を得ることができた。その結果、自分たちが捕まえた魚は、きれいな水を好んで生息する種であることが分かり、それまで漠然と「きれいな川」と考えていた地元の河川が、水質が保たれているきれいな川であることを実感することができた。

活動を通して、子供たちは、それまで当たり前前の存在と考えていた音川の自然環境の価値（川の水質が保たれていること、生物のすみかとなる森林が豊富に残されていること、都市部では見られない生物がたくさん生息していること等）に気づき、地域の魅力を再発見することができた。

単元の後半では、見付けた音川の自然の魅力を広める活動を行った。この活動は、自分たちが気付いた音川地区の魅力をどのようにしてみんなに伝えるかについて話し合うことから始まった。話合いの結果、校内に「音川博物館」をつくり、実際に地域の生き物を展示することに決めた。校内に設けた博物館に子供たちが調べて作成した解説を添えて展示することで、全校児童や来校者に魅力を広めることにした。



学校の近くに生息するサワガニ



サワガニの展示コーナーを整備する子供たち



捕まえたクモをカナヘビに食べさせる様子



教室のワークスペースに設置した音川博物館の一部



山田川の魚の展示コーナー



「2号館」と題して職員室前に設けた展示スペース

音川博物館の製作過程で、子供たちは、水槽や飼育ケース内に音川の自然環境をどのようにして再現し維持していくかについて、試行錯誤を繰り返した。その過程で、子供たちは環境保全の難しさや命の大切さを実感することができた。これらの経験は子供たちにとって、今後、地域のために自分たちができることを考え、取り組んでいこうという意識をもつきっかけとなった。3学期の学習ではその意識を生かし、地域の環境保全の活動につなげていく予定である。

(4) 全校での取組

生活科・総合的な学習の時間「地域の方々への感謝の集い」

本校では、全学年が年間を通じて地域の方々にお世話になっている。1年生は学校の近くでの桜の植樹、2年生はキノコの駒菌打ち体験、3年生は大かぶづくり、4年生はねいの里での学習、5年生は米づくり、6年生は林業体験と、地域を学び、地域から学ぶ機会を多く設けることができている。他にも、地域ボランティアによる毎週の読み聞かせ等、多くの方々に支えられながら学校生活を送っている。そこで「地域の方々への感謝の集い」を開催し、日頃の感謝の思いを綴った手紙渡しや各学年による地域学習についての発表を行った。

感謝の気持ちを伝えるために、自分たちの思いを表現する活動を通して、子供たちは、自分たちが本当にたくさんの人々に支えられていることを実感することができた。同時に、今年度の地域学習を振り返ることができ、自分たちと地域のつながりを再確認することができた。



歌と踊りで気持ちを伝える1年生



感謝のメダルを贈る2年生



大かぶに関するクイズをする
3年生



音川博物館の説明をする4年生



米づくりの学びを紹介する5年生



自然環境保全についての考えを
発表する6年生

3 まとめ

音川校区の豊かな自然環境とそれを生かしながら大切に守られてきた文化、そして子供たちを支えてくださる地域住民の方々は、子供たちにとって小学校に入学する前から、身近で、当たり前の存在であった。

しかし、本実践を通して、音川の豊かな自然環境や文化は、先人や今を生きる地域の人々が大切に守り続けているかけがえのないものであることに気付き、決して当たり前の物ではないと考えるようになった。

このような学びを今年度だけで終わらせることなく、音川小学校の学びの文化として継続し、気付き、考え、主体的に取り組む子供の育成を目指していきたい。